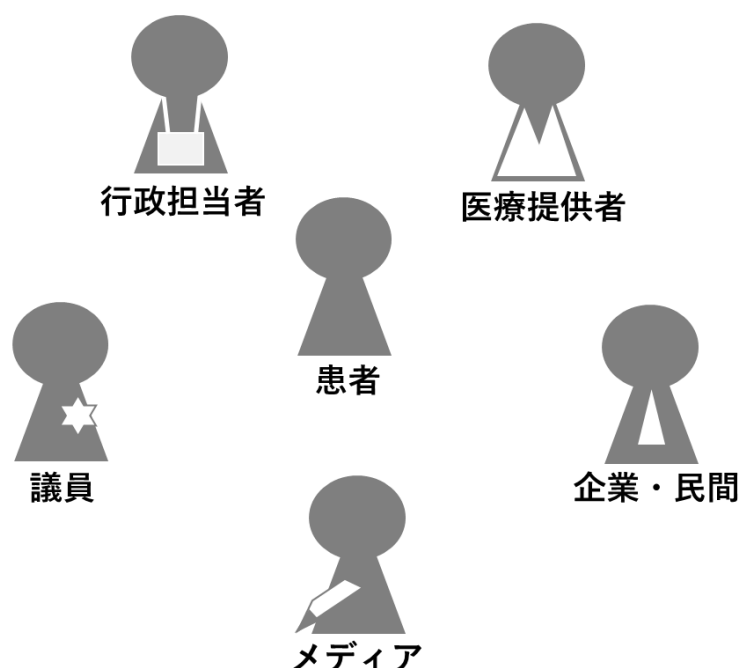


# 「六位一体\*」で政策議論を進めるためのガイド

\*六位一体：患者関係者、議員、行政担当者、医療提供者、メディア、学術企業など民間が一体となって協働すること  
(<http://advocacy-college.net/files/2/2-0.pdf>)



この資料は、六位一体で行う議論の進め方について、「がん政策サミット (<http://cpsum.org/summit>)」で学んだ知恵を、有識者の知見と合わせてまとめたものです。地域でがん対策に取り組む方々が、次期計画に関して議論するためのグループワークを行うなどのシーンを想定しています。政策議論を効果的に進めるために、参加するステークホルダー全員の方にご一読いただきたい内容です（がん対策はもちろん、他の領域でもご活用いただければ幸いです）。

政策を議論する目的は、「患者にとっての生命や生活の質などの状態」「患者に提供されている医療やケア等のサービスの状態」といった「アウトカム」を高めることにあります。よって当事者である患者やステークホルダー（関係する立場の人々）からの声を広く集めることが欠かせません。その際に、問題・課題の背景にある原因や、解決をはばんでいる制約条件に対して、立場を超えて向き合い、共に解決策を見出していくことが求められます。

2017年3月  
特定非営利活動法人がん政策サミット

本リーフレットは、2016年度サントリー文化財団「人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成」および特定非営利活動法人がん政策サミット2016年年間活動への寄付金 (<http://cpsum.org/>) をもとに作成いたしました。

## 事前準備

### 1. 必要なメンバーを確認しよう

議論の場（会議）を設定する主催者は、まず参加を呼び掛ける範囲を決める必要があります。多様な立場の種類や定義について明確な決まりはありませんが、がん対策においては「六位一体」が定着してきました。この言葉は、①患者・家族・遺族②議員③行政担当者④医療提供者⑤メディア⑥学術企業などの民間——の6つの立場を意味しています。これを目安に、議題するテーマによって当事者、ステークホルダー、専門家が誰なのかを確認し、参加してもらうことが必要です。それぞれの立場との協働の必要性については、『患者アドボカシーカレッジ』（<http://advocacy-college.net/>）第2章「異なる立場と協働するとき」をご参照ください。

### 2. ファシリテーターをたてよう

議論の舵取りをする進行役=ファシリテーターを決めましょう。ファシリテーターの役目は、①話し合いの土俵を作る②時間と進捗を管理する③参加者の意見を引き出す④議論をかみ合わせて整理する⑤納得感のある合意をつくる——であり、自分の意見を言う役ではありません。つまり、議題の内容に精通していることよりも、中立的な立場で参加者の意見を引き出し、話を整理していく力が求められます。会議の主催者が、ファシリテーターに適任な人を探します。そして、議論の目的やゴール、参加者の特性、進め方の留意点などを事前に打ち合わせをしておくことが重要です。また、ワークの冒頭、主催者が参加者全員の前で、ファシリテーターと参加者の役割を明確に説明しておくことも大切です。

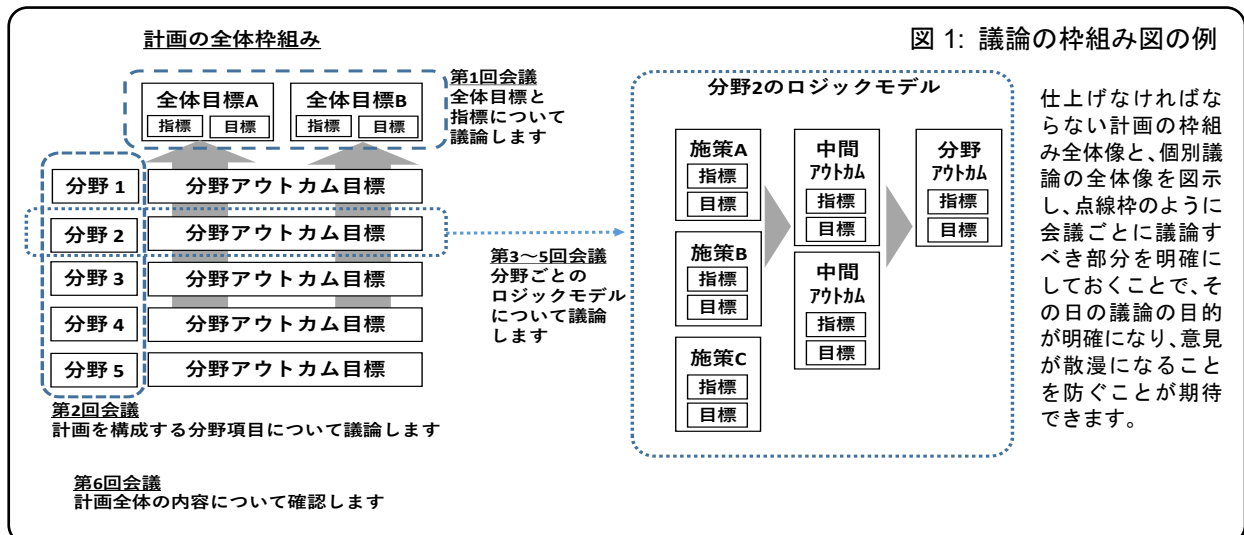
『患者アドボカシーカレッジ』第4章「8 ファシリテーション」に専門家による概説を見ることができます。ご参照ください。

### 3. 参加者全員で内容を理解しておこう

議論を建設的で実り多いものにするためには、そのときの議題に関する現状、課題、背景などについて、基本的な各種資料や数値データを参加者全員が事前に読んで理解しておく必要があります。特に、それまでの経験と知識の少ない参加者に対しての支援が大切です。

そこで、会議の主催者には、①会議の目的・ゴールの説明②議題検討にあたり理解しておくべき資料や数値データの提供③経験と知識の側面からサポートが必要な人への支援——などを事前に行うことが求められます。

議題に専門用語や難解な単語が出てくる場合は、必ず用語集を参加者全員に共有しておきましょう。用語の理解が人により異なっていると、議論がかみ合わなくなってしまいます。



#### 4. 対等な場づくりを心がけよう

すべての参加者が対等な立場で参加し、互いを尊重し合う雰囲気づくりが大切です。「〇〇先生」は使わず、全員に対して「〇〇さん」と呼び合うこともひとつのアイデアです。全員が話しやすい雰囲気を作り、みんなの発言を引き出すことが重要です。そのためには、まず冒頭に、参加者全員に手短かに意見を聞くこともひとつの方法です。

政策議論の場ですので、参加者の発言は「意見の内容と理由」を端的に述べたいものです。要点を絞らないと、相手に伝わらないだけでなく、他の人の発言時間を奪うことにもなってしまいます。また、“声の大きい人”や同じ人の発言が続いたり、誰かが発言しにくい雰囲気になったりしないよう、ファシリテーターが全員に発言を求めるなど、配慮が求められます。議論を深めるために特定のステークホルダーの経験や知識が重要な場合もあります。そのような場合は、ファシリテーターがその人を指名して意見を引き出すこともあり得るでしょう。

#### 5. ステークホルダーごとの役割を生かした発言をしよう

各人は自身の立場の代表者として参加しています。自分の発言は個別意見に偏っていないだろうか、みんなの声を代表しているだろうか、と自問自答しながら参加する緊張感が求められます。

患者・家族・遺族、議員、行政担当者、医療提供者、メディア記者、企業、学術、それぞれが得意分野を持っています。例えば、患者は体験／疑問とデータ／政策を結ぶ話、議員は法令や予算措置で可能な施策案、行政担当者は現行施策の背景説明、医療提供者は医療現場の実情、メディアは中立的な情報の整理などで、議論の場における情報量と質を高めることができます。同時に、他の立場の人の意見を傾聴して取り入れる姿勢も大切です。自分の得意分野にこだわって、長時間の“演説”をしたり、他の人が意見を語る気持ちを抑圧してしまったりすると、議論での成果が小さくなってしまいます。多様な意見をゴールに向けてうまく合体させることが、六位一体議論の醍醐味です。

特定の立場の人に限った議論よりも、六位一体による議論によって、より効果や実行性が高く、みんなで意欲をもって取り組めそうな対策案が出れば、うまくいったケースと言えるでしょう。

#### 6. 議論の枠組みを可視化しよう

参加者に議論の全体像を知らせるため、議論の枠組みを1枚の紙（図1参照）に示して全員で共有すると良いでしょう。常に「何のためにこの議論をしているのか」を意識しやすくなりますし、何回目の会議に自分のどの意見を発言するのが適切か、見通しがつけやすくなります。

ときに白熱した議論はその日の議題からはずれがちになります。この枠組みシートがあれば、このような場合でもファシリテーターが「今はこの部分の議論をしています、その意見は別のときに伺います」などと、話を戻しやすくなります。

#### 7. 全員の納得感を大事にまとめよう

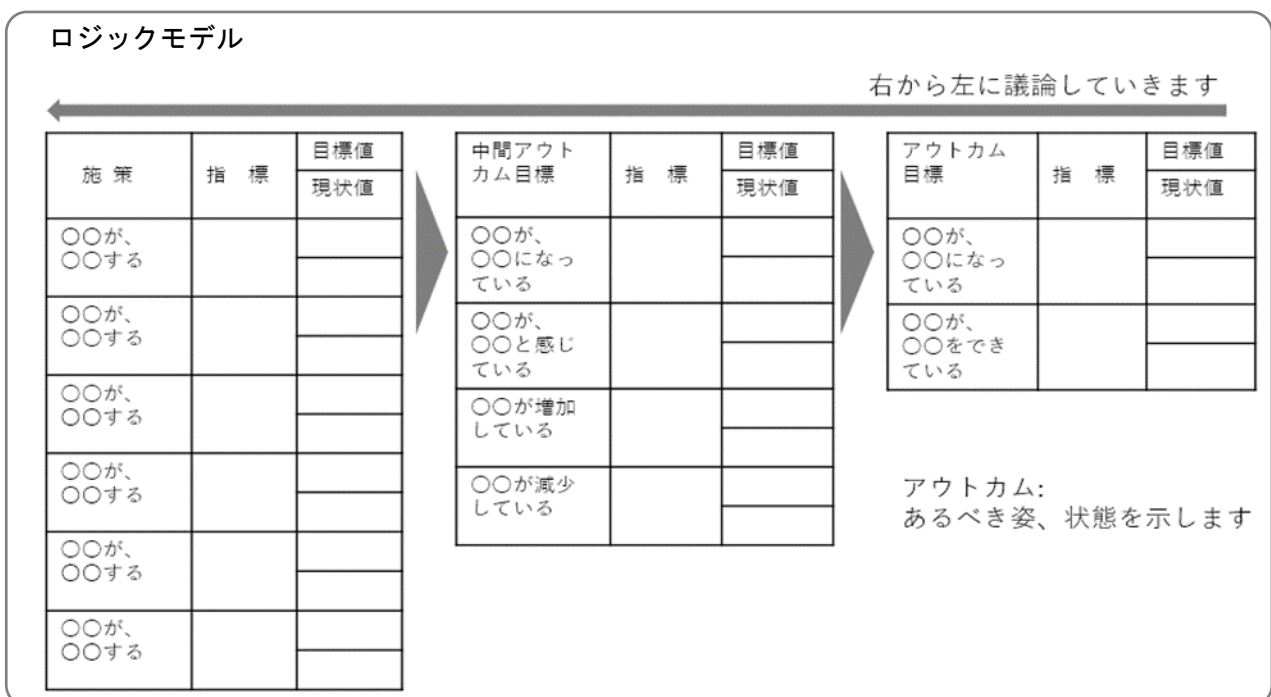
会議の終盤では、みんなで意見を整理しながら、ファシリテーターの中立性をもった舵取りのもと、まとめの方向に議論を進めていきます。基本的に、課題解決にもっとも効果が高そうな施策という観点から議論を取りまとめていきます。その過程で今回のまとめからは除外される意見も出てきます。そのようなときには、ファシリテーターが除外する理由を簡単に説明し、全員の納得をもって進めることが必要です。最終的に、参加者全員が「“私たちの”議論のまとめ」と思えるような納得感を大事にしたいものです。なお、欧米人と比較して日本人は、温和に話をまとめたがる傾向があるそうです。その結果、中身や効果が薄れたり、新しいアイデアが埋もれたりする危険があります。多数決では拾えない、けれども貴重で有用な意見があることも認識し、まとめの中に残す余地も残しておきたいものです。

～政策議論に有効なツール「ロジックモデル」～

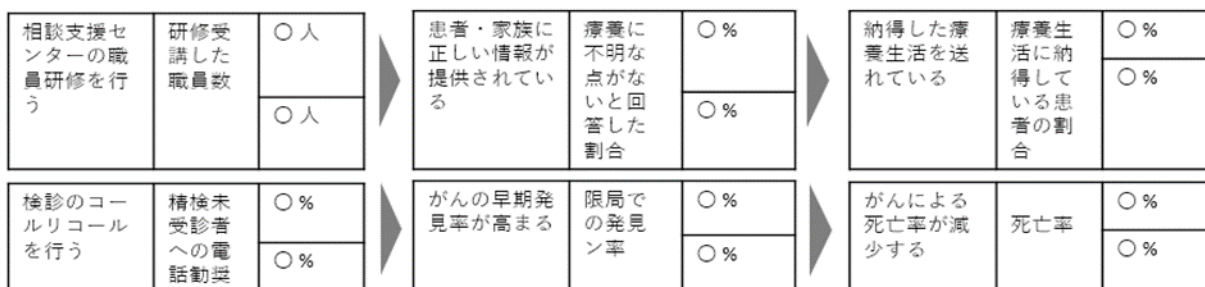
PDCA（Plan：計画、Do：実行、Check：評価、Action：見直し）サイクルに乗せた政策を回していくには、立案段階から政策のアウトカム（成果）目標を明確にし、目標から施策までの因果関係を明確にし、その上で評価項目や目標値の事前設定をしておく必要があります。

そのためには、ロジックモデルをツールとして活用することが有効とされています。これをもとに議論を進めれば、目標を見失わず論点もぶれにくくなります。また、1枚図にすることで、誰にでもわかりやすく、時間が経って政策担当者が交代しても内容が正確に引き継がれることが期待できます。

インターネットの検索サイトで、「ロジックモデル」や「logic model」と検索してみると、学際的にも有用性が確認されており、世界中の公的機関や社会問題に取り組むNGO/NPOが活用していることがわかります。形式は様々ありますが、ここでは汎用性の高いシンプルなモデルを紹介していきます。適宜改変してご活用ください。



ロジックの例



●活用の例は、こちらをご参照ください。

だれにでもできるがん計画の作り方

<http://cpsum.org/pdf/cplanuide1606.pdf>

がん対策の参考ロジックモデル

[http://cpsum.org/pdf/CPsum\\_Cpanlogicmodel.pdf.pdf](http://cpsum.org/pdf/CPsum_Cpanlogicmodel.pdf.pdf)